

<p>第189回 都市懇サロン レポート</p>	<p>『国土のグランドデザイン 2050』が描くこの国の未来</p>		
<p>講師</p>	<p>国土交通省 国土政策局 国土政策企画官 小松 雅人 氏</p>	<p>開催日</p>	<p>平成27年3月10日(火) 18:00~20:00</p>
<p>講師 プロフィール</p>	<p>平成9年 国土庁入庁 平成25年 国土交通省 国土政策局 総合計画課 国土政策企画官 (内閣官房まち・ひと・仕事創生本部事務局併任)</p>		
<p>お話の概要 意見交換の内容を合わせて記載</p>	<p>■講義の概要</p> <p>小松氏が策定に関わった「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」と過去の国土計画について説明。また、氏が内閣官房で行っている「まち・ひと・しごと創生」政策についても説明して頂いた。</p> <p>①これまでの国土計画 国土計画とは、国土に関する、長期的な計画、総合的な計画、空間的な計画である。第二次世界大戦後、1950年に国土総合開発法が制定され、その後、全国総合開発計画（一全総～四全総）、21世紀の国土のグランドデザイン（H10）、国土形成計画（H20）が制定されてきた。</p> <p>②「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」 時代の潮流と課題を見据え、平成26年に「国土のグランドデザイン 2050」が完成。「多様性」「連携」「災害への強い対応」を国土づくりの3つのテーマとする。また、人口減少社会への対応策として「コンパクト+ネットワーク」をキーワードとしたまちづくりや、リニア中央新幹線開通による大阪・名古屋・東京の三大都市圏を「スーパー・メガリージョン」として形成する人流・物流、国際競争力の強化など、新たな国土形成計画への提唱が示されている。</p> <p>③「まち・ひと・しごとの創生」 人口急減・超高齢化という大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するために、平成26年に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置された。しごとがひとを呼び、ひとがしごとを呼ぶ好循環を確立するため、「自立を支援する施策」、「夢を持つ前向きな施策」、「地域の実情等を踏まえた施策」、「直接の支援効果のある施策」、「結果を追求する施策」の整備の徹底を図っている。</p> <p>■意見交換の概要</p> <p>○「国土グランドデザイン 2050」の位置づけは？ ・本グランドデザインは国土交通省がまとめた国の長期ビジョンであり、閣議決定はされていない。ただし、内閣の地方創生の中に活かすべきと国土交通大臣から意見が出ている。</p> <p>○リニア中央新幹線開業によるストロー効果についてはどう考えているのか？ ・東京・大阪間の移動時間・距離が短いため、ストロー効果の影響が発生しにくく、逆に良い効果が図られると見ている。また、スーパー・メガリージョンの形成についてはリニア中央新幹線の範囲内にとどめず、周囲に波及するように考えていかなければならない。開業による効果はまだ詳しく分析していないため、今後考える必要がある。</p> <p>○首都機能移転については、本グランドデザインで議論を行ったのか？ ・議論はしていない。以前、国会特別委員会で議論したが現在は委員会自体が無い。現在政府内でどこを首都のバックアップ機能にするか議論が出ていない。</p> <p>○島根県「田舎の田舎」に次世代が定住している要因は？ ・過疎化の最も深刻な島根県は、過疎の研究に注力し、海士町を始め市町村毎に様々な取り組みを行い、新たな人の受入れ体制が整ってきている。また、東北地方は人の受入れに閉鎖的な気質と感じているが、中国・四国地方は人の受入れに寛容であると見ている。</p> <p>○市町村合併により、小・中学校の学区の範囲が拡大し、小・中学生に影響があるのでは？ ・学校は地域のコミュニティの核となっているので残していきたい。学生数が少ない地域の維持については、まだ本グランドデザインには盛り込んでいない。</p> <p>○観光分野は経済的に大きな力となると見ているが、ゴールデンルート以外の観点はあるのか？ ・観光分野については、海外・国内の観点で、本グランドデザインに盛り込んでいる。</p> <p>○国内の人口政策では限界がありそうだが、移民受け入れ政策の議論は行っているのか？ ・移民政策については触れなかった。移民を受け入れても人口減少の速度に追いつかないものと考えている。海外に日本のファンを増やすための議論は行っている。</p>		
<p>記録者のこと</p>	<p>本グランドデザインは、国土交通省主導の計画として作成されたものであるが、観念的なものではなく、統計データに基づく内容となっており、具体性が高く、実効性に期待が持てようである。それゆえに、出席者からの意見も多く、充実した意見交換となった。今後は、本グランドデザインをいかに実行し運用していくのかといったアクションプランが重要と感じた。</p> <p>＜都市懇サロン運営部会委員 相田 諭希典＞</p>		